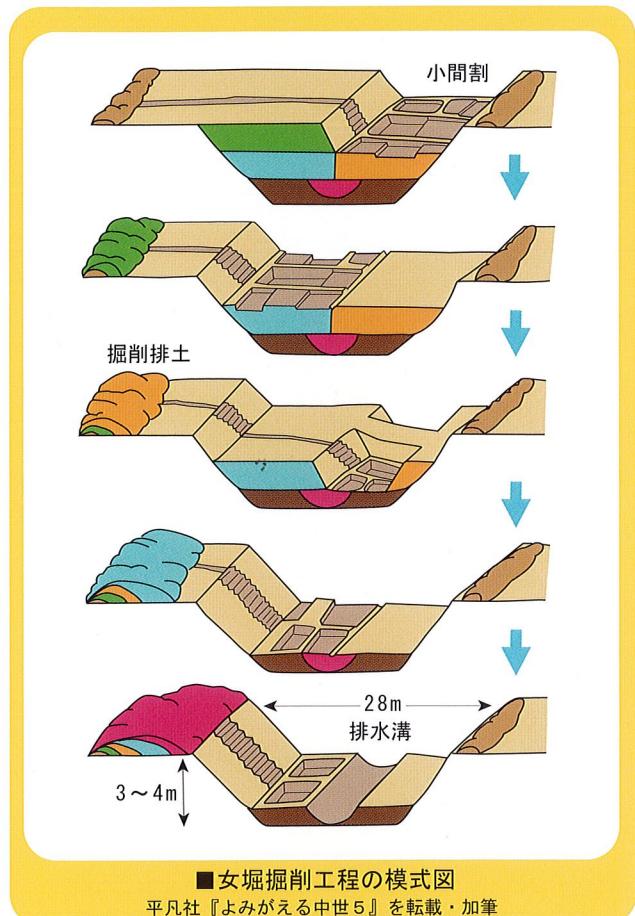
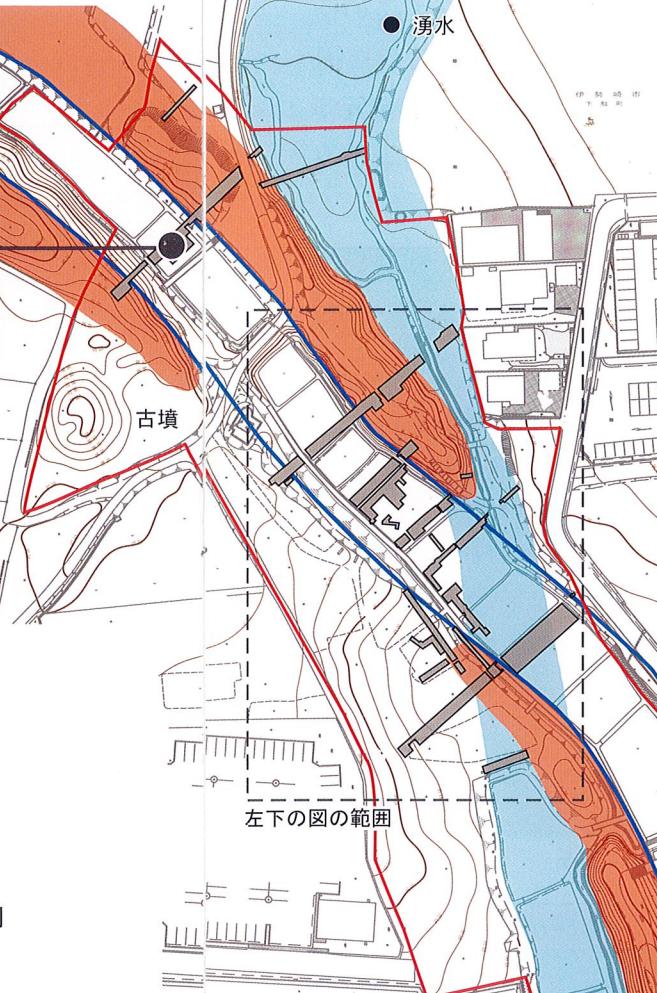


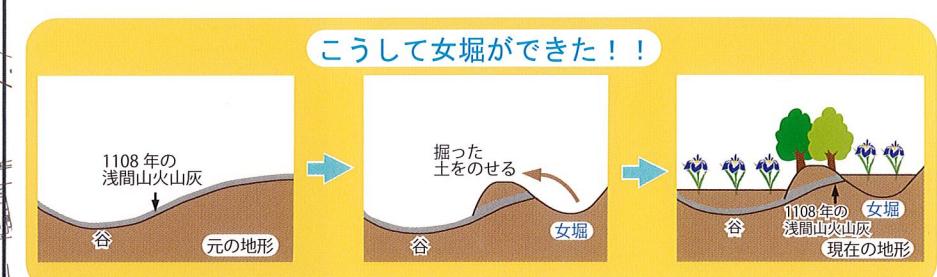
女堀の掘削-段掘工法と小間割-



女堀の堀幅は、28mに設定され、掘削深が最大4.5mにも及び、段堀工法によって数段階に分けて堀り下げを行いながら作業を進めたようです。また堀り下げには作業範囲を区画（小間割）して掘削を行っている痕跡が確認できています。

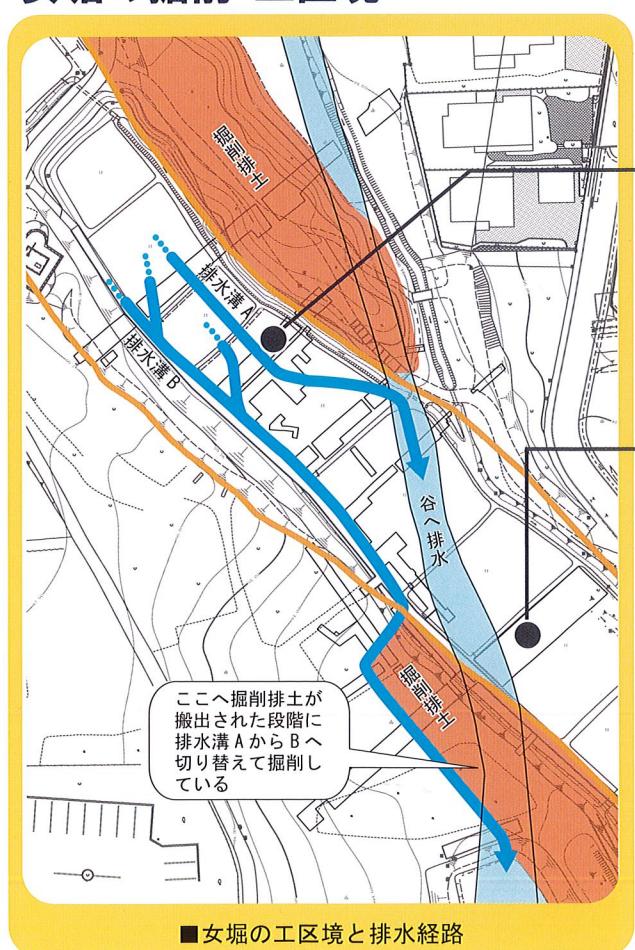


女堀の掘削-掘削排土-



女堀を掘削した土は、谷と交差する地形に応じ平坦な箇所では両岸に、傾斜地では低地側へ土手状に搬出されています。下層には掘削した表土、上層には粘土が搬出され、掘削排土を粘土で覆うことによって、安定させる役割があったと考えられます。また掘削排土の下からは、天仁元年（1108）の浅間Bテフラや大治3年（1128）の浅間Aテフラが検出され、テフラ降下後の12世紀中頃に女堀の掘削が行われたと考えられます。

女堀の掘削-工区境-



伊勢崎市下触町の史跡女堀は、自然の谷とX字状に交差しています。谷と女堀の交点を境に、女堀底面の工事の進行状況には差があり、谷を挟んだ女堀の北側と南側では工区が異なると考えられ、谷は工区境であったと考えられます。

谷と交差する南側の女堀は底面が平坦に堀下げされている一方で、北側は排水溝を設けて掘削を進めました。北側の底面は南側よりも1m前後高いことから、南側の底面に合わせるように北側も掘り進めていたのでしょうか。



女堀は掘削が中断されていること、底面に用水路として水が通水した痕跡がないことから、未完成であったと考えられます。

- 史跡範囲
- 女堀
- 挖削排土
- 谷
- 発掘調査箇所

